

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：11201

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H01004

研究課題名(和文) 地域をつなぐ自省的な「歴史認識」形成のための実践的研究 - 東北地方を軸に -

研究課題名(英文) Practical Study For the reflective "historical recognition" to relate the communities: Focusing on the Tohoku district

研究代表者

今野 日出晴 (KONNO, Hideharu)

岩手大学・教育学部・教授

研究者番号：10380213

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：社会科教育研究者を中心にして、「軍事郵便」(北上平和記念展示館所蔵)に焦点をあわせて、その書き手の居住していた地域のフィールドワークも含み込んだ歴史教育プログラムを構想し、「軍事郵便」の資料的特性を活かした授業実践をおこなった。その授業実践と学際的な検討によって、戦争へと駆りたてられた被害的な側面と中国の戦場での加害的な側面とが、農民兵士の戦争体験から浮かび上がり、等身大の戦争とその責任にも眼を向けるような、自省的な「歴史認識」への萌芽を確認することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域のなかの「軍事郵便」を授業実践に取り入れて、形態、宛先、差出地、差出時期、検閲の有無などの基本的なことから、内容を理解するための文脈(時代状況、戦局の推移、戦場の拡大、地域や家族の実状など)まで、「軍事郵便」を、授業で扱う際の方法を明確にしたこと。それによって、遠くの戦争を身近な個人の体験としての戦争へと捉え直すことを可能にするとともに、史・資料を「歴史家のように読む」ことの方法的有効性を提示した。

また、授業実践を学際的に検討することによって、「史・資料読解」「法による和解」「授業評価」など、授業実践を検討する視点そのものを深化させ、<歴史実践>のひとつのスタイルを示すことになった。

研究成果の概要(英文)：Our group, mainly consisting of social studies education researchers, focused on the "military postal service" (in the collection of the Kitakami Peace Memorial Museum) and designed a history education program that included fieldwork in the area where the writer lived, and conducted teaching practices based on the material characteristics of the "military postal service". Through the teaching practices and interdisciplinary study, we were able to confirm that the war experience of peasant soldiers reveals both the damage that drove them to war and the perpetration on the battlefields of China, and that it also creates the seeds for a self-reflective "historical awareness" that also looks at responsibility.

研究分野：歴史教育学

キーワード：軍事郵便 歴史認識 歴史教育 和解 授業づくり 歴史家のように読む

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 戦争と植民地支配をめぐる「歴史認識」の問題は、「歴史対話」や「歴史和解」を主題に、さまざまな共同研究が取り込まれ、日本と韓国、日本と中国など、相互に認識の〈溝〉を直視し、理解しあうために、教科書分析や共通教材の作成などを中心に探求されてきた。それらは、多くの成果をあげてきたが、その〈溝〉を直視し、相互理解をはかるような授業実践や教育実践を対象にして、学際的な共同研究が行われることは少なかった。

(2) その一方で、授業実践や教育実践は、社会科教育研究者と小・中・高等学校等の教員によって探求されるが、「歴史認識」問題において、焦点となるような、加害と被害の記憶、戦争責任と謝罪(「罪と責任」)、和解と宥和などの問題が、近現代史学習のなかで主題化され、授業実践が組まれることもまた少なかった。

(3) 「歴史認識」問題と近現代史を対象とする授業実践とが切り離され、相互に関連・参照されないまま進められているという状況であり、戦争と植民地支配をめぐる「歴史認識」の問題を解き明かそうとする課題意識に貫かれて、学際的な共同研究として、授業実践や教育実践が取り組まれることはなかった。

(4) 近年、注目されるもののひとつに〈歴史実践〉の提起があるが、それは、歴史家が特権的に歴史に関わるというあり方に対し、さまざまな人びとが日常的に歴史と関わる行為を重視するものであった。先の「基礎的研究」()での〈歴史実践〉の探求は、その内実を先駆的につくりだすものであり、学際的な共同研究の道を拓くものであった。

(5) また、国際的には、スタンフォード大学の「歴史家のように読む」や、イタリアの中等教科書の「歴史家の仕事」のように、歴史家がどのような作業をしているか - 史・資料の読解の手順や方法 - という点に注目して、歴史学習を構想しようとする動向も生まれていた。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、戦争と植民地支配をめぐる「歴史認識」の問題を解き明かそうとする課題意識のもとに、日本と中国の研究者の学際的な協働によって、「感情の記憶」を包み越えるために開発・提案した歴史教育プログラムを、日本と中国の教育機関において実践・検証し、自省的な「歴史認識」育成のための方策を明らかにすることを目的とする。

(2) そのために、まず、第一に、提案する歴史教育プログラムは、歴史研究者の史・資料へのアプローチの方法を基軸にする。それは、国際的な動向を踏まえるとともに、歴史学習として実践することを通して、「歴史認識」としての有効性を学際的に検討しようとするものである。第二に、国境を越えた学際的な協働によって、歴史教育プログラムの開発・実践・検証をおこなうが、その共同研究全体の過程を、社会科教育研究者の主導のもとに運営・実施し、その総体を〈歴史実践〉として提案することにも、本研究の特色がある。

3. 研究の方法

本研究は、社会科教育研究者によって、開発した歴史教育プログラムを、日本と中国の教育機関で実践し、それぞれの立場と視点から、学際的な共同研究によって、検討を加えるというものだが、コロナウィルス感染状況は、こうした研究の方法と段階に大きな制約を加えた。2020年度などは、中国の研究者の招聘や日本の研究者の中国への渡航もできず、授業実践を集団で参観し学際的に検討するということが自体が難しい状況であり、翌年度へ事業を繰り越して、時期を調整しながら事業を進めていった。その後も、コロナ禍は終息せず、特に、学校現場では、学校外からの参観が抑制される状況が続いた。そのため、総体として研究活動は大きな制約のなかであり、最終的には、中国の教育機関での歴史教育プログラムの実施と検討は断念せざるを得なかった。

(1) 研究代表者、研究分担者、研究協力者を中心に、継続的な共同研究を進めるために、先の「基礎的研究」()で立ち上げた「東北アジア歴史認識研究会」を、本研究でも、メンバーを拡充して運営していった。しかし、さきの制約のなかで、日本と中国の研究者がフィールドワークも含めた共同研究会を開催できたのは、1回にとどまり(2018年度)、以後は、リモートでの研究討議などで運営していった。

(2) 研究課題の明確化と基本的な視座の共有をはかるために、2018年8月8~9日に全体研究会(於、岩手大学)を開催した。8日には、今野日出晴(研究代表者)による基調報告、二宮衆一(研究分担者)による「歴史家のように読む」アプローチの検討、さらに、川島茂裕(北上平

和記念展示館学芸員)による「軍事郵便資料学」の報告がおこなわれ、中国側の研究協力者とともに、問題意識の共有がはかられた。9日には、「軍事郵便」(北上平和記念展示館所蔵)及び、北上市和賀町周辺の戦争遺跡に関するフィールドワークをおこない、「7000通の軍事郵便」の予備的な調査を実施した。この予備的な調査によって、本研究の基本的な方向性が定まり、コロナ禍のなかでも、歴史教育プログラムを開発し得た理由になっている。

(3) 社会科教育研究者(今野・外池・小瑤)を中心に、2019年9月に「東北アジア歴史認識研究会」をもち、本研究の全体構想を確認しながら、「軍事郵便」に関連する授業実践を構想し、その有効性に関して意見交換をおこない、その後も、農民兵士の戦争体験に焦点をあわせた歴史教育プログラム開発を進めていった。

(4) これまでの授業構想を軸に、「軍事郵便から見えてくるもの」(上田淳悟主幹教諭:盛岡市立上田中学校第3学年、2021年11月)として、授業実践をおこなった。直接の参観が難しい状況のため、ビデオ撮影により実践を共有し、教科教育研究の視点(授業構成、目的と方法の関連、生徒理解など)や歴史研究の視点(軍事郵便の史料としての妥当性、内容についての理解、史料保存など)や法社会学の視点(国際法の理解や和解の意味づけ)、さらに教育評価の視点(評価規準の検討)など、学際的な分析と検討を行った。

(5) さきの学際的な分析と検討をうけて、新たに単元「第二次世界大戦とアジア」(6時間)全体を組み替えて、歴史教育プログラムを構想した。軍事郵便の内容と戦争体験とを結びつけるという視点だけでなく、軍事郵便と戦局全体を関連させて全体を示すべきという指摘をうけて、軍事郵便の差出時期と差出地を集計した教材を新たに開発した。また、加害と謝罪の問題も深めるべきという指摘をうけて、戦争を支える村の在り方(加担)を『真友』(在郷軍事会会報)の内容から、事実を読み取れるように資料の補強をおこなった。これらは、軍事郵便の新たな解釈の水準()を踏まえて構想したものである。

4. 研究成果

前述のように、本研究は、コロナ禍のなかで、研究活動そのものが、大きな制約のなかにあったが、それでも、いくつかの成果と課題は明らかになった。

(1) 社会科教育研究者を中心にして、「軍事郵便」に焦点をあわせて、その書き手の居住していた地域のフィールドワークも含み込んだ歴史教育プログラムを構想し、「軍事郵便」の資料的特性を活かした授業実践をおこなった。授業実践とその学際的な検討から、戦争へと駆りたてられた被害的な側面と中国の戦場での加害的な側面とが、農民兵士の戦争体験から浮かびあがり、等身大の戦争とその責任に眼を向けるような、自省的な「歴史認識」への萌芽を確認することができた。

資料的な特性という点では、「歴史家のように読む」アプローチが、有効な方法を提示した。形態(封書、葉書)宛先、差出地、差出時期、検閲の有無などの基本的なことから、内容を理解するために時代の文脈をどう読み解くのか(戦局の推移、戦場の拡大、農村・家族の状況など)など、「軍事郵便」を手にすることで、遠くの戦争が個人の身近な体験としての戦争へと結びつけられていった。

戦争責任という視点からは、戦争を支える村の在り方が焦点となるが、その時点にとどまらず、戦後の動向にも視野をひろげることが、重要になってくる。北上平和記念展示館の「軍事郵便」では、高橋峯次郎という個性を通じて理解することが可能になる。高橋は、戦後に平和観音堂を建立し、そこから戦争に送り出したことの責任と謝罪とが確認できる。戦後の視点を組込むことで、戦争責任と「和解」の問題とが焦点化され、自省的な「歴史認識」へと深化していく。

(2) 資料としての軍事郵便だけでなく、実際に、北上市和賀町周辺の戦争遺跡(江釣子神社忠霊塔・高橋千三墓・旧後藤野飛行場・平和観音堂・旧藤根小学校跡地 二宮金次郎石像など)を調査したことは、軍事郵便の書き手(旧藤根村から出生した兵士)を把握する点において、大きな意味をもっていた。戦争とそれを支える村の具体相を明らかにするようなフィールドワークの重要性が改めて提起された。それに関わって、中国の研究協力者:韓東育による、「軍事郵便」の紹介と北上平和記念館、周辺のフィールドワークについての論考が貴重な成果となっている()。特に、「抗日戦争」として描かれる戦争像に対して、農民兵士の「軍事郵便」による、もう一つの戦争像を提起していることは、相互理解にとっても重要な論点であった。

(3) 戦争体験を授業で扱うということ自体の意義と課題について、研究代表者の今野は、平和博物館での歴史実践などと対比しながら、「なぜ戦争体験を継承すべきか」という原理的な問いについて探求し、トラウマをくぐり抜けることの意味を提起し、さらには、修学旅行なども含めた歴史教育プログラムを<歴史実践>として定立したことも、本研究に関わった成果であった()。

(4) <歴史実践>ということでは、さきの「基礎的研究」():「花岡事件のフィールドワークを軸にした授業構想と歴史実践」を、研究分担者の外池智が、北東北三大学(岩手・弘前・秋田)の社会参加と社会参画の試みとして位置づけて、提案した()ことも、本研究の意義を確認するものであった。

(5) また、花岡事件に関しては、研究分担者の土屋明広が、「裁判上の和解」から「心の和解」へ接近することの意味を探求し、加害者による加害行為の認知と謝罪、そして被害者の赦しを産み出す取り組みとして提示した。この視点は、花岡事件だけでなく、本研究にも示唆を与えるものであった()

(6) 史・資料を解読するという営みを進めれば、史・資料に基づいて、学習者が歴史を叙述するという<歴史実践>へと接続する。今後の展望とも関わって、研究代表者の今野は、高校の地歴科科目「歴史総合」での史・資料の扱いについて、身近な学校資料を主題にして歴史を叙述することを提案した()

(7) 本研究を遂行して、今後の課題として明確になったことは、以下の2点である。

まず、史・資料を読み解くためのアプローチとして、「歴史家のように読む」ということの有効性は確認したが、同時に、それを可能にするために、史・資料に向き合うための「問題意識」をどのように育てていくのかということが課題になってきた。本研究では、「軍事郵便」を書いた農民兵士の具体的な生活舞台を、フィールドワークで確かめることによって、「問題意識」が明瞭になり、「軍事郵便」の解読を推し進めることができた。しかし、通常の学校教育の場で、同様のことをおこなうことは、なかなか難しく、「問題意識」や「当事者性」を育むような方策が独自に追求されなければならないことを示している。それは、「軍事郵便」が書かれた時代状況、そこに生きる個々人の生活状況、さらには、それらを認識する私たちの現在との関わりなどを如何に提起できるのかということに関わっている。

次に、上記のことと相反するようにみえるが、研究分担者の二宮衆一の指摘した点が重要になってくる。二宮は、イギリスの大学入学資格試験(Extended Project Qualification)を分析し、探究スキル学習としては、強すぎる「問題意識」や「当事者性」が、逆に、生徒の客観的な資料収集や分析を困難にするという指摘である()。その点では、探求のための推進力としての「問題意識」を涵養しながら、それをいったん留保して、客観性を担保しながら(それは、先の「基礎的研究」()の成果からすれば、「異質な他者」あるいは「意味ある他者」を組込むこととも関連する)読み解いていくための方策というありかたを視野に入れる必要があるだろう。このことも、今後の自省的な「歴史認識」を育成のための歴史教育プログラムを開発するためには、重要な論点になってくる。

<引用文献>

- 『2013 - 2016 年度 基盤研究 B 研究成果報告書 地域をつなぐ自省的な「歴史認識」形成のための基礎的研究 課題番号:25285241』(2017年、全155頁)
- 北上平和記念展示館編著『北上平和記念展示館の軍事郵便』(2017年、全281頁、非売品)
- 韓東育「抗日不需要神劇：日軍家書如是说」(『読書』2021年10月号)
- <https://mp.weixin.qq.com/s/zL19PQngWEno780K09ooSw> (2023年6月1日確認)
- 今野日出晴「『戦争体験』、トラウマ、そして、平和博物館の『亡霊』」(蘭信三・小倉康嗣・今野日出晴編著『なぜ戦争体験を継承するのか ポスト体験時代の歴史実践』みずき書林、2021年、全503頁)
- 外池智「歴史教育における社会参加と社会参画 南風原中学校、城山小学校、北東北三大学の取組を事例として」(『社会科教育研究』第143号、2021年)
- 土屋明広「『赦し』と法 『花岡和解』を通して」(林田幸広・土屋明広・小佐井良太・宇都義和編著『作動する法/社会 パラドクスからの展開』ナカニシヤ出版、2021年、全302頁)
- 今野日出晴「歴史に学ぶということー『私たち』と資料」(『歴史評論』第877号、2023年5月)
- 二宮衆一「探究する能力の育成と評価 イギリスの大学入学資格試験への探究的学習の導入」(伊藤実歩子編著『変動する総合・探究学習 欧米と日本 歴史と現在』大修館書店、2023年)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計40件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 蘭信三・小倉康嗣・今野日出晴	4. 巻 2
2. 論文標題 「なぜ戦争体験を継承するのか」刊行記念シンポジウム	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大和大学社会学研究紀要	6. 最初と最後の頁 15-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 78
2. 論文標題 戦争体験「語り」の継承とアーカイブ（10） 広島市「被爆体験伝承者」、長崎市「家族証言者」を事例として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 秋田大学教育文化学部研究紀要 教育科学	6. 最初と最後の頁 57-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 45
2. 論文標題 地域における継承的アーカイブを活用した「次世代の平和教育」の構築 横須賀市を事例として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河西英通	4. 巻 56
2. 論文標題 生存の希望と射程	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会文学	6. 最初と最後の頁 59 - 70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今野日出晴	4. 巻 11
2. 論文標題 なぜ戦争体験を継承するのか - 歴史教育の視点から -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩手大学文化論叢	6. 最初と最後の頁 89-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 143
2. 論文標題 歴史教育における社会参加と社会参画 南風原中学校, 城山小学校, 北東北三大学の取組を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会科教育研究	6. 最初と最後の頁 20-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 77
2. 論文標題 戦争体験「語り」の継承とアーカイブ(9) 広島市「被爆体験伝承者」・長崎市「交流証言者」を事例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 秋田大学教育文化学部研究紀要 教育科学	6. 最初と最後の頁 69-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 44
2. 論文標題 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用(4) 昭和館を事例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 二宮衆一・丸山佑樹	4. 巻 6
2. 論文標題 「学びのログ」を活用した「主体的に学習に取り組む態度」の育成と評価	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 和歌山大学教職大学院紀要：学校教育実践研究	6. 最初と最後の頁 73 - 81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二宮 衆一・中山和幸・久保文人・西原有香莉・平井千恵・中岡正年	4. 巻 72
2. 論文標題 子どもの学びの自己調整を生みだす授業	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要. 教育科学	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤大介	4. 巻 17
2. 論文標題 東北大学百年史編纂室に関する個人資料の紹介・続	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東北大学史料館研究報告	6. 最初と最後の頁 57-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今野日出晴	4. 巻 13
2. 論文標題 批判が忌避される時代の歴史教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 同時代史研究	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今野日出晴	4. 巻 10
2. 論文標題 教育実践の可能性を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岩手大学文化論叢	6. 最初と最後の頁 119-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今野日出晴	4. 巻 57
2. 論文標題 「問い」を立てるといこと	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 全歴研研究紀要	6. 最初と最後の頁 37-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今野日出晴	4. 巻 21
2. 論文標題 学校教育における世界遺産の教材化についての研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 平泉文化研究年報	6. 最初と最後の頁 26-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 43
2. 論文標題 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用(3) 松代大本営地下壕を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 外池智	4. 巻 76
2. 論文標題 戦争体験「語り」の継承とアーカイブ(8) 広島市「被爆体験伝承者」・長崎市「交流証言者」を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 秋田大学教育文化学部研究紀要 教育科学	6. 最初と最後の頁 39-68
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 河西英通	4. 巻 847
2. 論文標題 旧広島陸軍被服廠とわたしたち	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 67-76
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋明広	4. 巻 19
2. 論文標題 「触変」の条件	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 インターカルチュラル	6. 最初と最後の頁 24-28
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤大介	4. 巻 16
2. 論文標題 東北大学百年史編纂室に関する個人資料の紹介	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北大学史料館研究報告	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今野日出晴	4. 巻 828
2. 論文標題 内面化される「規範」と動員される「主体」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今野日出晴	4. 巻 725
2. 論文標題 歴史家のように読む - 時代の文脈をとらえる -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会科教育	6. 最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 42
2. 論文標題 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用(2) 「館山歴史公園都市」構想と「館山まるごと博物館」を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 42
2. 論文標題 戦争体験「語り」の継承とアーカイブ(7) 広島市「被爆体験伝承者」・長崎市「交流証言者」を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 秋田大学教育文化学部研究紀要 教育科学	6. 最初と最後の頁 49-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小瑶史朗	4. 巻 123
2. 論文標題 戦後史学習のコンテンツを問う 東アジアと「生存」の視座から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 47 - 58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河西英通	4. 巻 22
2. 論文標題 津軽と大学闘争ー一九六九年前後の弘前大学ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アリーナ	6. 最初と最後の頁 352-368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河西英通	4. 巻 12
2. 論文標題 書評：小杉亮子『東大闘争の語りー社会運動の予示と戦略』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 同時代史研究	6. 最初と最後の頁 105-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河西英通	4. 巻 11
2. 論文標題 昭和初期の「東北飢饉」をどうとらえるか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JunCture超域的日本文化研究	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤大介	4. 巻 83
2. 論文標題 自治体史編纂とデータ管理(2) 新聞などのデータベース化について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮城歴史科学研究	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤大介	4. 巻 84
2. 論文標題 自治体史編纂とデータ管理(3) 画像データなどの管理について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮城歴史科学研究	6. 最初と最後の頁 51-59
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今野日出晴	4. 巻 14
2. 論文標題 「戦争体験」をわかち合うこと	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本オーラル・ヒストリー研究	6. 最初と最後の頁 55-64
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今野日出晴	4. 巻 716
2. 論文標題 「歴史家のように読む」ための視点を加えると...	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会科教育	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 74
2. 論文標題 戦争体験「語り」の継承とアーカイブ(6) 広島市「被爆体験伝承者」・長崎市「家族証言者」を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 秋田大学教育文化学部研究紀要 教育科学	6. 最初と最後の頁 67-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 外池智	4. 巻 41
2. 論文標題 くにたち原爆体験伝承者」育成プロジェクトを事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河西英通	4. 巻 46-9
2. 論文標題 戊辰戦争・明治維新一五〇年と東北	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 72-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河西英通	4. 巻 225
2. 論文標題 東北史から全体史へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 部落問題研究	6. 最初と最後の頁 115-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河西英通	4. 巻 21
2. 論文標題 「アトムの子」はいかにつくられたか?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アリーナ	6. 最初と最後の頁 269-274
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小瑶史朗	4. 巻 121
2. 論文標題 戦後史学習の再構築に向けて 歴史教育者協議会における議論の足跡を手がかりとして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 29-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤大介	4. 巻 79・80合併号
2. 論文標題 戦後の出稼ぎと東北地方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宮城歴史科学研究	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤大介	4. 巻 31-39
2. 論文標題 自治体史編纂とデータ管理(1) 宮城県岩沼市の市史編纂事業を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮城歴史科学研究	6. 最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 地域における継承的アーカイブを活用した「次世代の平和教育」の構築 横須賀市を事例として
3. 学会等名 日本社会科教育学会 第72回全国研究大会 自由研究発表
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 社会科教育では、地域からの戦争の事実をどう伝えるべきか
3. 学会等名 日本社会科教育学会 第72回全国研究大会 課題研究
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 今野日出晴
2. 発表標題 <歴史実践>として切り拓かれるもの - 焦点としての平和博物館 -
3. 学会等名 立命館大学国際地域研究所、平和主義研究会、International Network of Museums for Peace (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用(3) 昭和館を事例として
3. 学会等名 日本社会科教育学会 第71回全国研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小瑶史朗
2. 発表標題 課題研究 地域教材でつながる社会科と総合的な学習
3. 学会等名 日本社会科教育学会 第71回全国研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用(2) 松代大本営地下壕を事例として
3. 学会等名 日本社会科教育学会 第70回全国研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 歴史教育における社会参加と社会参画 南風原中学校, 山里小学校, 北東北三大学の取組を事例として
3. 学会等名 日本社会科教育学会 第70回全国研究大会 シンポジウムパネリスト
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今野日出晴
2. 発表標題 「歴史家のように読む」という試み - 史料を扱うための視点 -
3. 学会等名 岩手県高等学校教育研究会(地歴・公民部会) 秋季研究大会 講演(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用 「館山歴史公園都市」構想と「館山まるごと博物館」を事例として
3. 学会等名 日本社会科教育学会 第69回全国研究大会 自由研究発表
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 継承的アーカイブと秋田の現状
3. 学会等名 秋田・市民のメディア研究会 9月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 全国の戦争遺跡の指定・登録の現状と秋田県戦争遺跡研究会の取り組み
3. 学会等名 秋田近代史研究会 2019年秋季研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 戦後70年における「次世代の平和教育」 広島、長崎を事例として
3. 学会等名 日本平和学会2019年度 秋季研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 地域の継承的アーカイブと「次世代の平和教育」 秋田県の地域素材を事例として
3. 学会等名 第59回秋田県民間教育連絡協議会 冬の研究集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 土屋明広
2. 発表標題 土屋明広和解による謝罪と赦し - 「花岡事件」についての考察
3. 学会等名 日本国際文化学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 戦争体験「語り」の継承と「次世代の平和教育」(3) 「くにたち原爆体験伝承者」育成プロジェクトを事例として
3. 学会等名 日本社会科教育学会第68回全国研究大会(奈良大会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 広島・長崎・沖縄、そして秋田での「次世代の平和教育」
3. 学会等名 関西平和教育学フォーラム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 外池智
2. 発表標題 戦争体験「語り」の継承 広島、長崎、沖縄、国立を事例として
3. 学会等名 立命館大学国際平和ミュージアム第10回ワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二宮衆一
2. 発表標題 探究学習のための評価のあり方
3. 学会等名 日本教育方法学会第54回大会課題研究
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 伊藤実歩子編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 234
3. 書名 変動する総合・探究学習	

1. 著者名 井門正美編 外池智ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 NSK出版	5. 総ページ数 372
3. 書名 命の教育 - 生きる力を培う -	

1. 著者名 荒井 正剛編著 小瑶史朗ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 160
3. 書名 中等教育社会科教師の専門性育成	

1. 著者名 河西 英通	4. 発行年 2021年
2. 出版社 有志舎	5. 総ページ数 310
3. 書名 東北史論	

1. 著者名 蘭 信三、小倉 康嗣、今野 日出晴編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 みずき書林	5. 総ページ数 512
3. 書名 なぜ戦争体験を継承するのか	

1. 著者名 歴史教育者協議会（歴教協） 今野日出晴・河合美喜夫ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 232
3. 書名 世界と日本をむすぶ「歴史総合」の授業	

1. 著者名 田中 耕治 編著 二宮衆一ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 274
3. 書名 よくわかる教育評価 [第3版]	

1. 著者名 伊藤実歩子編著 二宮衆一ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 278
3. 書名 変動する大学入試	

1. 著者名 林田 幸広、土屋 明広、小佐井 良太、宇都 義和 編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 作動する法 / 社会	

1. 著者名 秋田県戦争遺跡研究会編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 秋田文化出版	5. 総ページ数 191
3. 書名 秋田県の戦争遺跡 - 次世代を担うあなたへ -	

1. 著者名 小瑶史朗 篠塚明彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 弘前大学出版会	5. 総ページ数 166
3. 書名 教科書と一緒に読む 津軽の歴史	

1. 著者名 日本教育方法学会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 図書文化社	5. 総ページ数 152
3. 書名 中等教育の課題に教育方法学はどう取り組むか	

1. 著者名 田中耕治編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 208
3. 書名 学びを変える新しい学習評価 理論・実践編3 評価と授業をつなぐ手法と実践	

1. 著者名 大門 正克、岡田 知弘、川内 淳史、河西 英通、高岡 裕之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 368
3. 書名 「生存」の歴史と復興の現在	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	外池 智 (TONOIKE Satoshi) (20323230)	秋田大学・教育学研究科・教授 (11401)	
研究分担者	二宮 衆一 (NINOMIYA Shuichi) (20398043)	和歌山大学・教育学部・准教授 (14701)	
研究分担者	河西 英通 (KAWANISI Hidemichi) (40177712)	広島大学・人間社会科学研究科(文)・名誉教授 (15401)	
研究分担者	土屋 明広 (TUCHIYA Akihiro) (50363304)	金沢大学・学校教育系・准教授 (13301)	
研究分担者	小堀 史朗 (KODAMA Fumiaki) (50574331)	弘前大学・教育学部・教授 (11101)	
研究分担者	伊藤 大介 (ITOH Daisuke) (70400439)	東北学院大学・教養教育センター・助教 (31302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------